

1. 地域移行・地域定着支援

(1) 地域移行支援における対象者の把握

【内容】

当センターでは、病院からの依頼による地域移行支援対象者の把握に加えて、平成 22 年度から平成 29 年度まで岡山市生活保護・自立支援課及び岡山市保健所健康づくり課に協力を依頼し、岡山市内 6 福祉事務所が実施する「長期入院・入所者状況調査」（以下、「被保護精神障害者面接」）及び、保健所健康づくり課精神保健係が実施する「市長同意入院者状況調査」（以下、「市長同意入院者面接」）に同行し、長期入院患者の把握に努めた。

平成 29 年度からは受け入れ条件が整えば退院可能な精神障害者について把握し、当センターにおける地域移行支援事業推進のための基礎資料とするため、岡山市内の精神科病床を有する 8 病院へ岡山市精神科病院入院患者調査（以下、「入院患者調査」）を実施した。平成 30 年度からは、毎年入院患者調査を実施し、新たな長期入院患者を把握した。令和 4 年度からは、急性期の病院から他の病院へ転院するケースに関して、病院からの支援依頼により対象者の把握をした。令和 5 年度からは、新たな長期入院患者の把握だけでなく、これまでの入院調査により把握した長期入院患者に対しても調査（以下、「全数調査」）を実施した。

【実績】

（単位：人）

	病院からの依頼により 把握した対象者 (転院ケース数)	入院患者調査により 把握した対象者
令和元年度	10	27
令和2年度	6	2
令和3年度	6	3
令和4年度	5 (2)	0
令和5年度	3	8

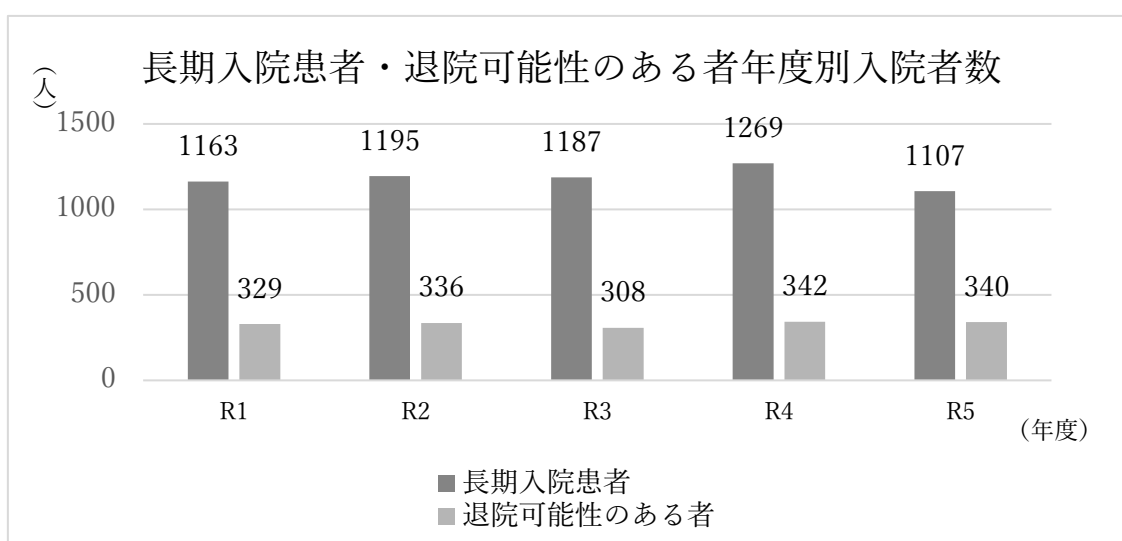
※カッコ内は急性期の病院から他の病院へ転院するケース

1) 病院からの依頼による地域移行支援対象者の把握

病院からの依頼により、地域移行支援対象者の把握を行った。令和 4 年度からは、急性期の病院から他の病院へ転院するケースも地域移行支援の対象とし、転院前から地域移行支援の対象者を把握することで転院先でもスムーズな支援を開始できるよう努めた。

2) 岡山市精神科病院入院患者調査による把握

岡山市こころの健康センターにおける地域移行支援事業推進のため、受け入れ条件を満たすことで退院が可能な精神障害者に関する調査を実施した。令和元年度から令和5年度は、平成29年度から実施している「入院患者調査」の結果に基づき、本人からの了解を得られた患者を地域移行支援の対象者とした。さらに令和5年度からは、全数調査の結果を元に、地域移行対象者リストを病院に提供し、より円滑な支援介入を推進した。



〈令和元年度調査〉

調査対象：医療観察法における入院処遇の患者を除く以下の者

- ①平成29年(2017年)11月1日から平成30年(2018年)10月31日までに入院し、調査時点で入院を継続している者
- ②平成30年(2018年)11月1日から調査時点までに退院をした者のうち、入院日が平成29年(2017年)11月1日以前の者

調査時点：令和元年10月31日

調査項目：調査対象者②については1)、2)、3)のみ

- 1) 氏名 2) 性別 3) 生年月日 4) 疾患名(選択式)
- 5) 日常生活に支障をきたしている身体疾患
- 6) 日常生活における介助の必要性
- 7) 入院形態 8) 入院日 9) 生保受給の有無
- 10) 主治医から見た現時点での退院可能性(選択式)
- 11) 退院阻害要件(選択式・3つまで)

結果概要：市内精神科病院に1年以上入院している長期入院患者は1163人
退院の可能性があるとされた者は329人

〈令和2年度調査〉

調査対象:医療観察法における入院処遇の患者を除く以下の者

- ①平成30年(2018年)11月1日から令和元年(2019年)10月31日までに入院し、調査時点で入院を継続している者
- ②令和元年(2019年)11月1日から調査時点までに退院をした者のうち、入院日が平成30年(2018年)11月1日以前の者

調査時点:令和2年10月31日

調査項目:令和元年度調査と同様、ただし、調査対象②については1)、2)、3)のみ

結果概要:市内精神科病院に1年以上入院している長期入院患者は1195人

退院の可能性があるとされた者は336人

〈令和3年度調査〉

調査対象:医療観察法における入院処遇の患者を除く以下の者

- ①令和元年(2019年)11月1日から令和2年(2020年)10月31日までに入院し、調査時点で入院を継続している者
- ②令和2年(2020年)11月1日から調査時点までに退院をした者のうち、入院日が令和元年(2019年)11月1日以前の者

調査時点:令和3年10月31日

調査項目:令和元年度調査と同様、ただし、調査対象②については1)、2)、3)のみ

結果概要:市内精神科病院に1年以上入院している長期入院患者は1187人

退院の可能性があるとされた者は308人

〈令和4年度調査〉

調査対象:医療観察法における入院処遇の患者を除く以下の者

- ①令和2年(2020年)11月1日から令和3年(2021年)10月31日までに入院し、調査時点で入院を継続している者
- ②令和3年(2021年)11月1日から調査時点までに退院をした者のうち、入院日が令和2年(2020年)11月1日以前の者
- ③平成29年(2017年)調査以降、令和3年(2021年)調査までに1年以上入院継続しており、調査時点まで入院を継続している者

調査時点:令和4年10月31日

調査項目:令和元年度調査と同様、ただし、調査対象②については1)、2)、3)のみ

調査対象者③については10)、11)のみ

結果概要:市内精神科病院に1年以上入院している長期入院患者は1269人

退院の可能性があるとされた者は342人

〈令和 5 年度調査〉

調査対象：医療観察法における入院処遇の患者を除く以下の者

- ①令和 3 年(2021 年)11 月 1 日から令和 4 年(2022 年)10 月 31 日までに入院し、調査時点で入院を継続している者
- ②令和 4 年(2022 年)11 月 1 日から調査時点までに退院をした者のうち、入院日が令和 3 年(2021 年)11 月 1 日以前の者
- ③平成 29 年(2017 年)調査以降、令和 4 年(2022 年)調査までに 1 年以上入院継続しており、調査時点まで入院を継続している者

調査時点：令和 5 年 10 月 31 日

調査項目：令和元年度調査と同様、ただし、調査対象②については 1)、2)、3)のみ
対象者③については 10)のみ

結果概要：市内精神科病院に 1 年以上入院している長期入院患者は 1107 人
退院の可能性があるとされた者は 340 人

【考察】

地域移行支援における対象者把握は、病院からの依頼と入院患者調査の 2 つの方法で行われている。

令和元年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、病院が退院支援のために必要と判断すれば病院からの退院支援依頼があった。病院からは、退院後の支援の継続を見据えた依頼が多かった。平成 22 年から当センターが病院と協働して地域移行支援を実施してきたことで顔の見える関係が構築され、事業の普及や事業への理解が進み、依頼されるようになったと考えられる。令和 4 年度以降の新たな取り組みとして、急性期の病院から他の病院へ転院するケースに関して、地域移行支援が途絶えないよう、病院から支援依頼があった。これにより、転院前に対象者と出会うことで本人の意向確認や転院前の支援者からの情報収集も可能となり、支援開始が大幅に早くなっている。

入院患者調査においては、年度ごとに市内精神科病院の長期入院患者と退院の可能性のある者を把握することにより、スムーズな支援開始に至っている。

今後も地域移行支援における対象者の把握に関しては、病院からの依頼や入院患者調査等を入口としつつ、新たな対象者把握方法も模索しながら長期入院患者の退院促進を図っていきたい。

(2) 地域移行支援

【内容】

精神科病院に入院中の精神障害者に対して、病院や関係機関と協働して、自分らしく地域で生活ができるように退院に向けた支援を行っている。実施にあたり、岡山市精神科病院入院患者調査や病院職員からの支援依頼により把握した入院者に対し、退院を目指した面接や、外出同行等の支援を実施した。対象者のうち本人や病院から了承を得られた者に対しては、当センターの地域移行に特化したピアサポーターが職員に同行し、面接や外出支援を行っている。

対象者のうち退院意欲が乏しい方に対しては、退院意欲の向上を目的に、面接や外出同行等の個別支援を実施し退院意欲が向上するよう関わりを継続している。

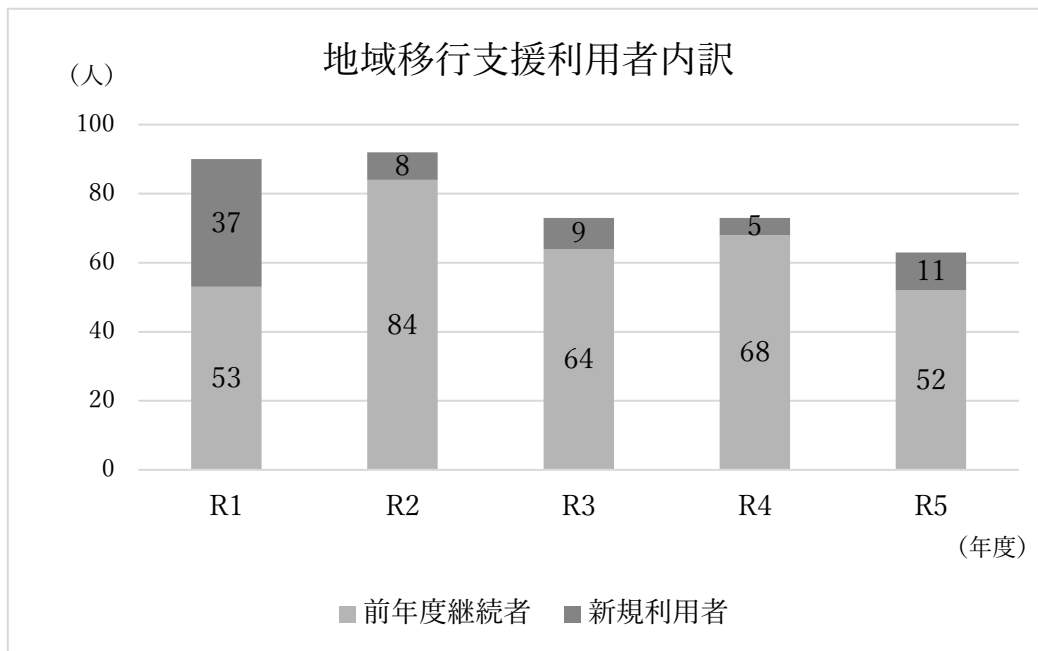
支援の実施により、障害者総合支援法の障害福祉サービスで地域移行支援が可能である場合には、相談支援事業所と連携している。

【実績】

1) 対象者数

(単位：人)

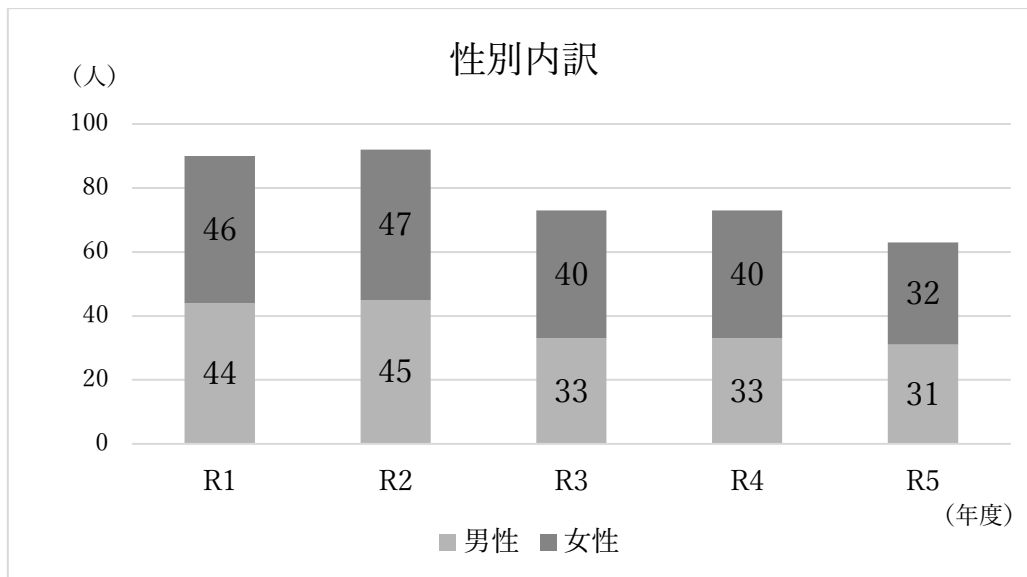
	支援病院数	前年度 継続者	新規 利用者	合計
令和元年度	6	53	37	90
令和2年度	6	84	8	92
令和3年度	6	64	9	73
令和4年度	6	68	5	73
令和5年度	6	52	11	63

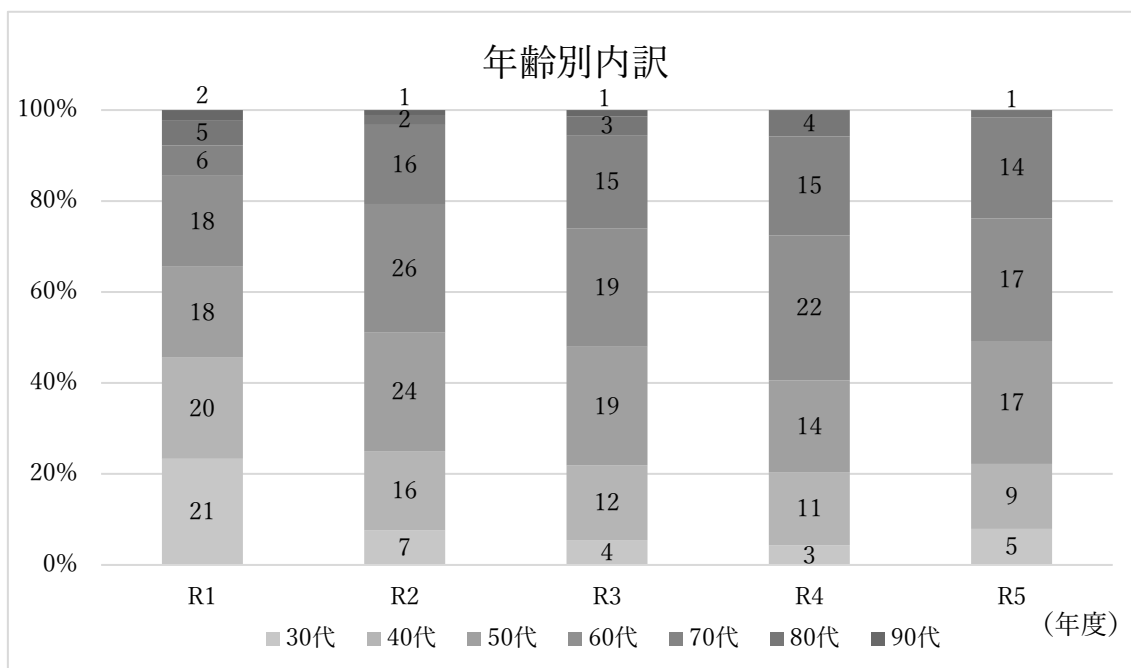


平成 30 年度からは、入院患者調査の結果に基づき対象者把握をし始めたことにより、新規利用者数が一時的に増加した。

2) 対象者概要

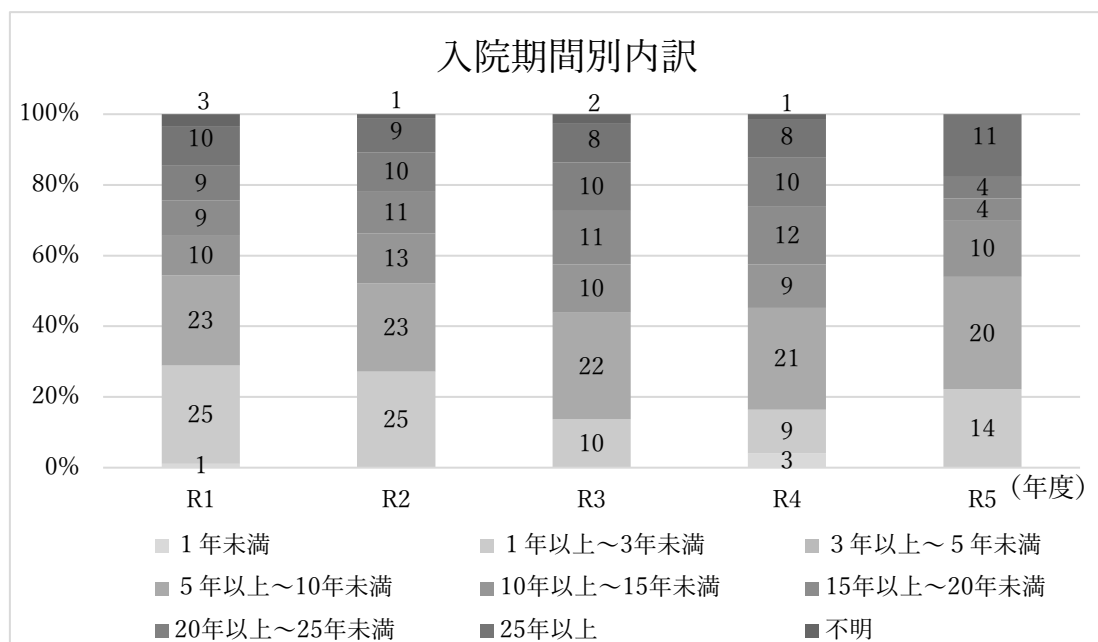
(1) 性別、年齢内訳





幅広い年齢層を対象に実施した。令和元年度は30代が多かったが、令和2年度から令和5年度は50代と60代が多かった。

(2) 入院期間内訳



令和元年度と令和2年度は1年以上～3年未満が最も多く、令和3年度から令和5年度は5年以上～10年未満が最も多かった。

(3) 支援状況内訳

【内容】

個別支援

病院へ訪問し、面接や外出支援を行っている。支援の中で、退院や退院後の生活のイメージづくりを行い、退院意欲の向上となるような関わりを継続している。地域移行支援の対象者へは病状などに考慮しながら、概ね2週間に1回、最低でも月1回の訪問や面接を実施し、定期的に濃密な支援が実施している。退院が間近になると施設見学や様々な手続きなどに同行し、退院後の生活の準備を一緒に行っている。必要な支援を必要なタイミングで行えるよう、状況に応じた支援を実施している。

	対象者数 (実数)	支援回数 (延)	支援内訳			
			訪問	電話	機関相談	WEB
令和元年度	90	1842	745	147	950	-
令和2年度	92	1465	197	273	990	5
令和3年度	73	1478	186	285	1004	3
令和4年度	73	1395	196	145	1038	16
令和5年度	63	1588	361	71	1155	1

令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により訪問・外出同行による直接支援の回数が減少したが、WEB利用や電話の回数が増加した。令和5年度は前年度と比較して訪問回数が増加しているが、令和元年度と比較すると半分程度である。

集団支援

・精神科病院でのグループ活動

退院意欲向上を目的に各病院が独自で実施している病棟でのグループ活動に企画段階から参加した。入院患者や病院職員が入院中から退院後の生活をイメージできるよう、ピアサポーターとの協働にて実施した。

	病院数	実施回数	参加人数 (延)	企画会議実施 回数
令和元年度	2	6	114	5
令和2年度	2	0	0	0
令和3年度	2	0	0	0
令和4年度	※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止			
令和5年度	1	1	3	-

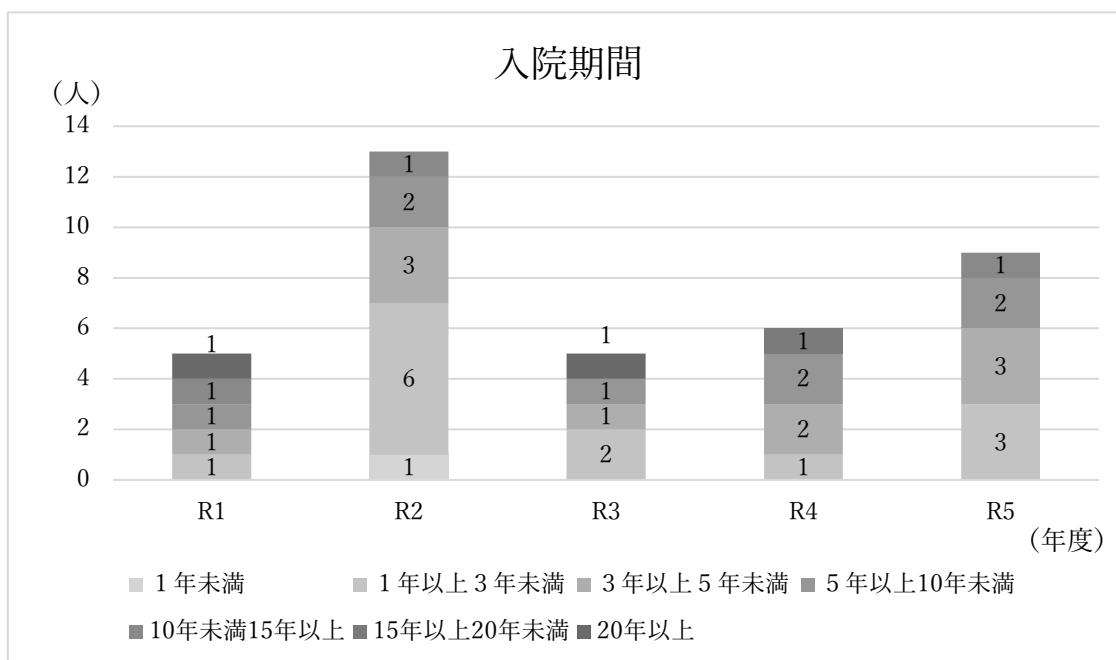
令和2年度から令和4年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、病院内で実施していたグループ活動を行えない期間があった。令和5年度から、グループ活動の再開に向けた調整を病院と行いグループ活動を実施した。

(4) 転帰

退院者数

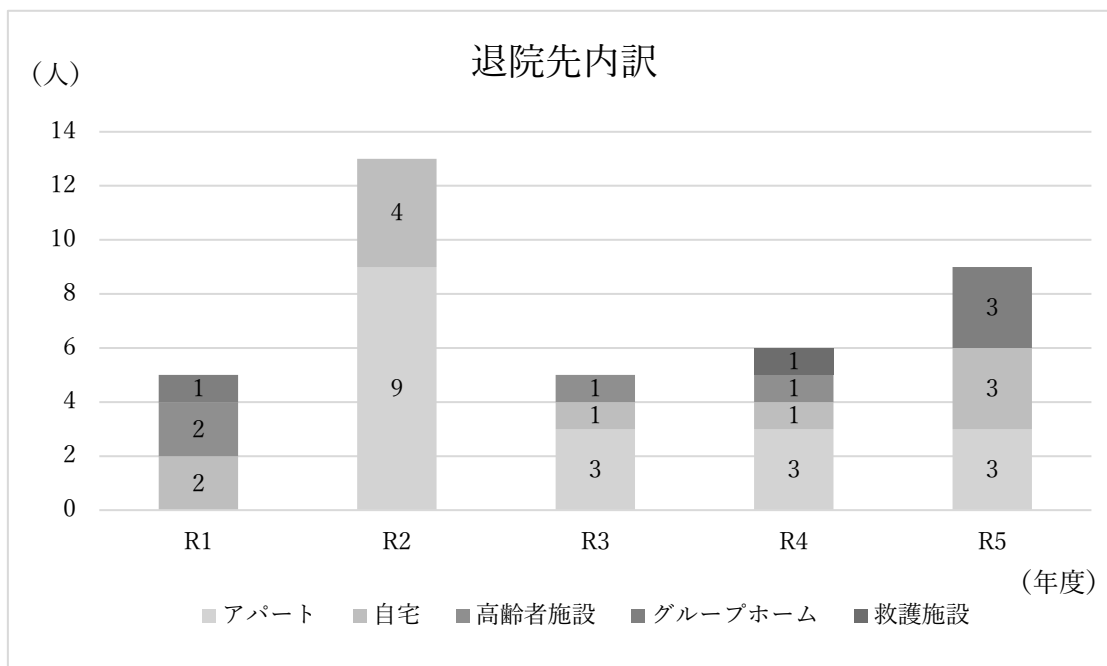
	退院者数
令和元年度	5
令和2年度	13
令和3年度	5
令和4年度	6
令和5年度	9

退院者の入院期間



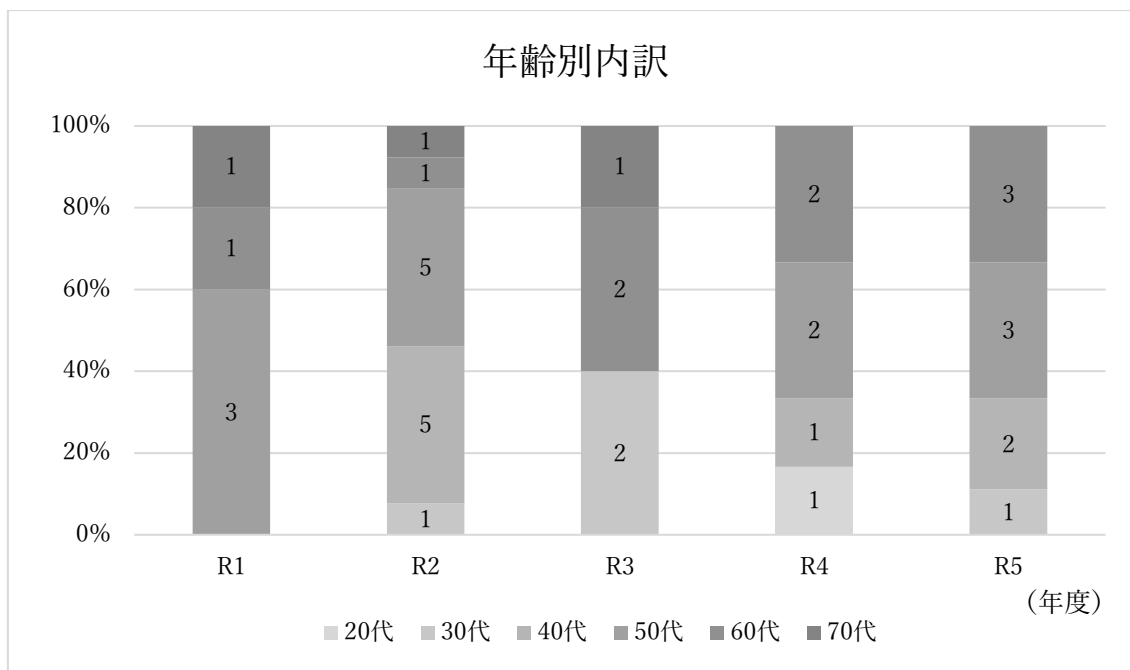
入院期間は幅広く、入院期間20年以上の退院者もいた。

退院先



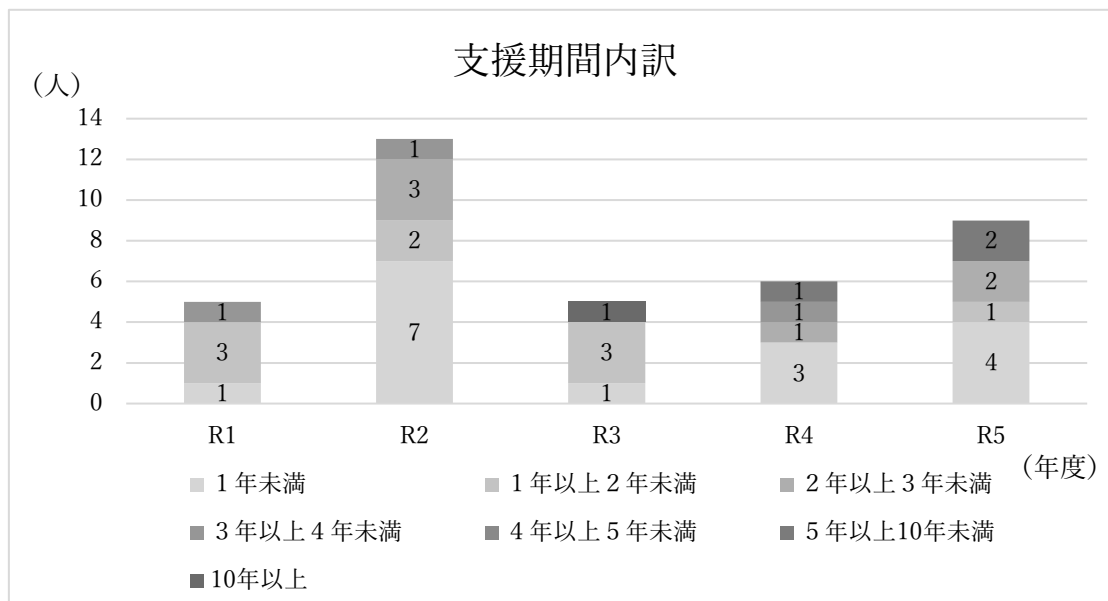
アパートと自宅で合わせて 68.4%であった。

退院者の年齢



退院者の年代は 20 代から 70 代と幅広い、50 代が最も多くなっている。

退院までの地域移行支援期間



2年未満が約半数を占めているが、10年以上の地域移行支援期間の退院者もいた。

<考察>

令和2年度から令和4年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、継続支援を行っていた対象者は直接支援が困難となったが、Web面接や手紙の送付、また病院との対象者の状況を共有し、間接的なつながりを持ち続けていた。令和4年度から徐々に直接支援が可能となり、間接的なつながりを持ち続けたことで再びスムーズに対象者と関わりだすことができたと考えられる。

令和2年度の退院者数は、令和元年度から新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたが、病院から、退院支援のために支援が必要と判断すれば支援ができたため、大幅に増加したと考えられる。

退院先は、アパートと自宅が全体の76.3%を占めている。退院先を検討する際には、対象者の意思を尊重しながら、状況に応じてアパートや自宅で生活できるような環境や体制等を検討しながら支援を行っている。今後も、対象者の意思を尊重しながら、本人にとって自分らしく地域で生活ができるよう病院や関係機関等とも検討していきたい。

当センターの地域移行支援は、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けて、これまでと同様の活動ができなくなり、その影響を少なからず現在も受けている。しかしながら、当センターの精神科病院に長期にわたって入院している方々の地域移行の取り組みは行政の責任だと考えている。しかし、その方法は時代に合わせながら柔軟に対応していく必要がある。今後も、病院や関係機関と協働しながら地域移行支援ができるような体制を整えていきたい。

(3) 精神障害者地域移行支援連絡会

【内容】

精神科病院の長期入院者が住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、精神科病院の支援者と、地域支援事業所の支援者を対象として円滑な連携を促進することを目的に平成30年度から開催している。

令和元年度

	内 容	会 場	参 加 人 数
1	令和元年7月19日 ・入院患者調査について ・退院支援の取り組みについて	岡山市保健福祉会館	35人
2	令和元年10月24日 ・退院支援の取り組みについて	岡山市保健福祉会館	32人
3	令和元年12月18日 ・退院支援の取り組みについて	岡山市保健福祉会館	21人
4	令和2年3月18日 ・退院支援の取り組みについて ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	岡山市保健福祉会館	-人

令和2年度

令和2年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

令和3年度

	内 容	会 場	参 加 人 数
1	令和3年9月29日 ・病棟内での地域移行支援の動きについて ・事例紹介	オンライン	23人
2	令和4年1月21日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	北消防署小会議室	-人

令和4年度

令和4年度から、岡山市障害者自立支援協議会の地域部会における地域移行支援ワーキングの協議に移行。

【考察】

平成30年度から障害福祉サービスによる地域移行支援の利用促進をするために、岡山市精神障害者地域移行支援連絡会を開催した。医療機関や相談支援機関から支援者が集まる小規模な会議であるが、事例検討を中心に議論や意見交換を行い「顔の見える関係」を意識した活動であった。令和2年度以降は一時オンラインで再開したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となっていた。

一方、障害福祉サービスによる地域移行支援の利用促進の取り組みは岡山市障害者自立支援協議会の地域部会でも始まっていた。当初は地域部会内に地域移行ワーキングを立ち上げ、一部の地域での活動であったが、現在は障害者基幹相談支援センターのバックアップにより、すべての地域部会に地域移行ワーキング（中央北、南西、東部）が立ち上がり、当センターの職員も参加している。そこでは地域の困難ケースの事例検討を通じて相談支援機関のつながりや地域移行に関する研修会等により、顔の見える関係の構築を図っているところである。

今後は、このワーキングを活用し、障害福祉サービスによる地域移行支援の利用促進につなげたい。

(4) 精神障害者地域交流会

【内容】

入院中の患者を対象に、交流会を開催している。地域で生活するピアサポーターと交流したり、社会資源等の見学、地域の支援者との交流を行ったりすることで退院後の地域生活をイメージできるよう働きかけを行っている。

【実績】

令和元年度

	内 容	会 場	参 加 人 数
1	令和元年7月2日 ・街で働くイメージをつかもう	フリーデザイン・こだま スローカフェたんぽぽ	8人
2	令和元年11月7日 ・住むことについて知ろう	きらめきプラザ 2階	15人
3	令和2年3月10日 ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止	岡山市保健福祉会館 栄養相談室	-人

令和2年度から令和5年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止。

【考察】

精神障害者地域交流会は、病院だけでは経験できないことを一緒に体験することで、支援者も本人の新たなストレングスを知ることができる非常に良い機会である。参加者自身も積極的に発言する機会も多く、地域で生活することについて自分自身のこととして考える機会となっている。また、地域の相談支援事業所とのつながりを持つ機会ともなっている。

令和元年度はB型事業所や住まい探しから入居までの実際の流れに触れ、参加者に働くことや住まいのイメージを掴んでもらう貴重な機会となった。

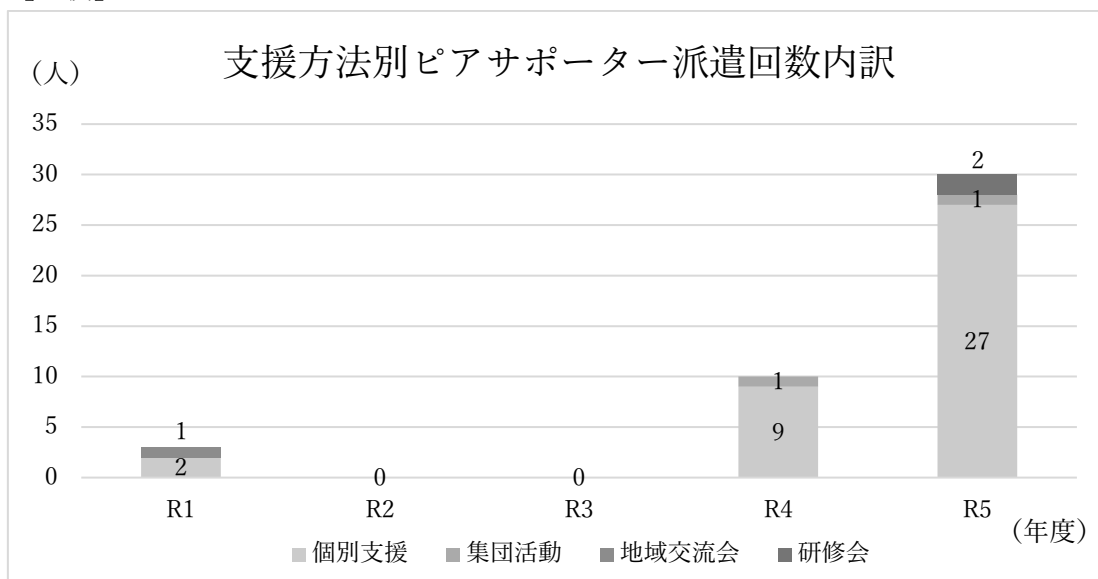
令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止せざる得ない状況となり、コロナ収束以降も市内精神科病院の入院患者が集う従来の形での実施が困難となっている。今後も入院中の患者が、保健福祉医療に関する支援者のみではなく、退院支援や地域生活にかかわる関係者との交流の場となるよう形を変えて実施していきたい。

(5) 地域移行支援ピアサポーター

【内容】

平成 21 年度以降、グループ活動や地域交流会に地域事業所から派遣されたピアサポーターが参加していたが、令和元年度に当センターの地域移行支援に特化したピアサポーターの公募を行った。精神科病院の長期入院者の退院への意欲向上や具体的なイメージ作りが行えるよう、ピアサポーターと面接や外出支援を行い、退院に向けた支援を行っている。

【実績】



個別支援が徐々に増えてきている。

【考察】

令和元年度にピアサポーターと個別支援を開始したが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、活動の休止を余儀なくされた。活動休止中もピアサポーターと勉強会や広報の検討等を行うことで、ピアサポーターの活動の意欲維持を図った。令和 4 年度から個別支援を徐々に再開できた。令和 5 年度は、さらにピアサポーターの活動の場を広げていく為に、地域移行支援対象者や病院・関係機関に活動を紹介し、派遣回数が増加した。ピアサポーターの関わりによって、地域移行支援対象者の表情や気持ちの変化がみられている。個別支援では、当センターの地域移行支援の途中段階でピアサポーターの関わりが始まっていたため、今後は、地域移行支援開始時にピアサポーターと協働することを意識しながら、ピアサポーターとの活動をさらに広げていきたい。

(6) 地域定着支援

【内容】

地域移行支援対象者のうち、退院後も本人が望む地域生活が送れるよう、訪問や外出支援を実施している。必要に応じて地域の関係機関と連携し、重層的な支援を実施している。

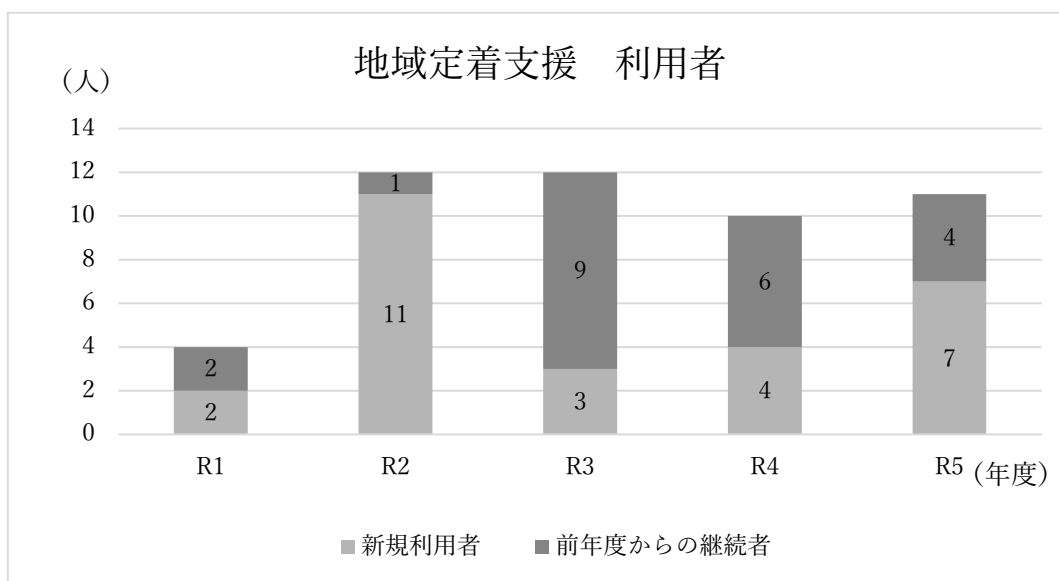
【実績】

1) 対象者数

(単位：人)

	前年度継続利用者数	新規利用者数	合計
令和元年度	2	2	4
令和2年度	1	11	12
令和3年度	9	3	12
令和4年度	6	4	10
令和5年度	4	7	11

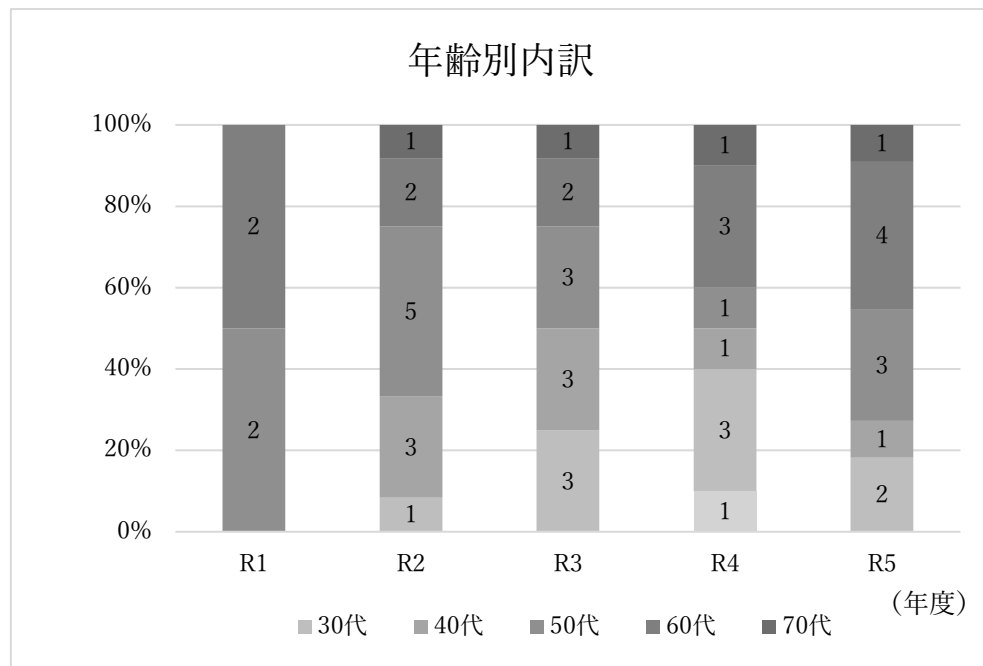
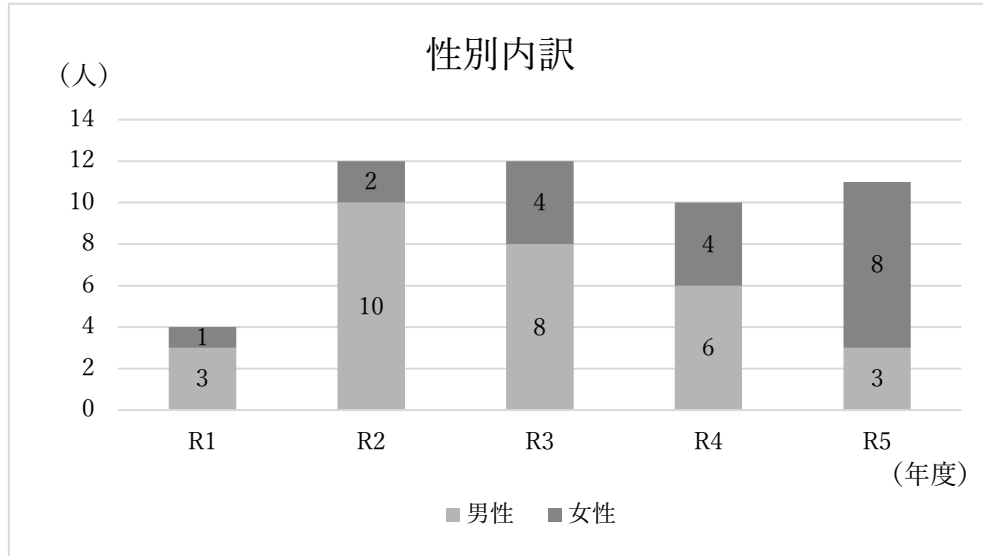
地域移行支援により退院した者のうち、状況に応じて地域定着支援を実施している。



令和2年度からは、おおむね年に10人以上の支援をしている。

2 対象者概要

(1) 性別、年齢内訳



令和元年度は 50 代と 60 代のみであったが、令和 2 年度からは、幅広い年齢層に実施した。

(3) 支援状況内訳

(単位：回)

	対象者数 (実)	支援回数 (延)	支援内訳				
			訪問	電話	機関相談	往診	WEB
令和元年度	4	159	29	26	104	0	-
令和2年度	12	497	79	124	294	0	-
令和3年度	12	711	130	160	421	0	-
令和4年度	10	424	60	86	278	-	0
令和5年度	11	607	126	104	377	-	0

対象者数は令和2年度からは横ばいとなっている。令和3年度は支援延べ回数が多くなっている。支援内訳のうち機関相談は約60%である。

<考察>

地域移行支援により退院した者に対して、訪問や電話などの直接支援や、関係機関との協働による支援を実施している。令和2年度は退院者が増加したことで、新規対象者が増加している。支援内訳のうち約60%が機関相談であり、退院後も関係機関と連携を行いながら地域生活の支援を行っている。当センターが行う本人への直接支援の他、障害福祉サービスや介護保険サービスの利用が可能な場合は、地域事業所と連携を行い地域での重層的な体制づくりができるように支援を実施している。また、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行が必要になる対象者に対しても、スムーズな移行ができる様に本人や関係機関と協働している。今後もこれまでのように地域支援者との顔の見える関係を作りながら、長期入院者が安心して地域で暮らしていく事ができる様に、体制整備を進めていきたい。

2. 地域精神保健危機介入・継続支援体制整備事業

【内容】

未治療や治療中断等により地域生活の維持・継続が困難となっている精神障害者が、住み慣れた地域で安心して地域生活が継続できるよう、支援を行っている。保健所、保健センターをはじめとした関係機関や、本人家族からの相談を受け、関係機関とも協働して支援を実施している。医師の往診や地区担当職員によるソーシャルワーク等を状況に合わせて組み合わせて実施している。

【実績】

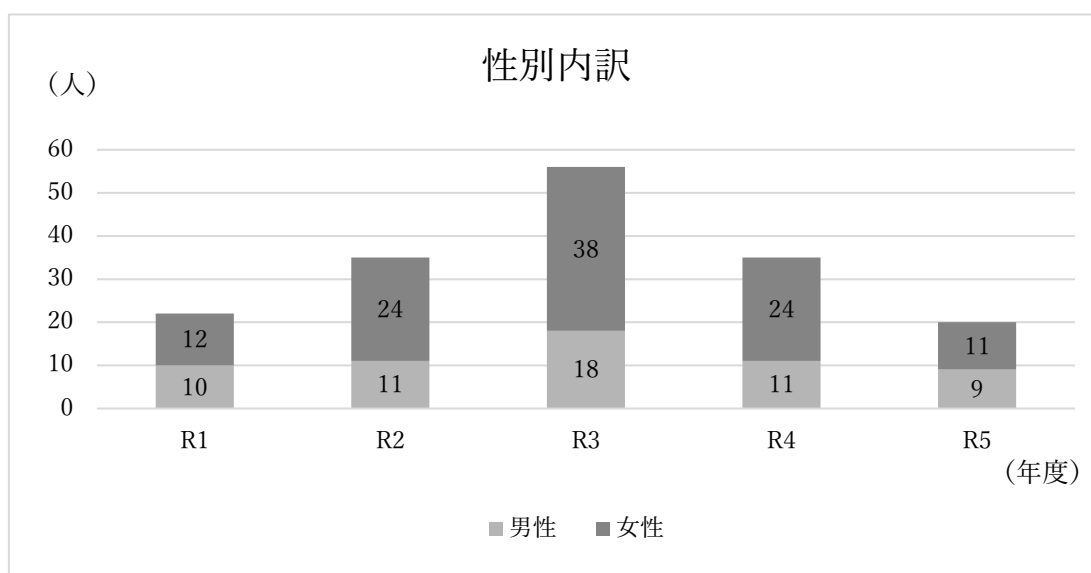
1) 対象者数

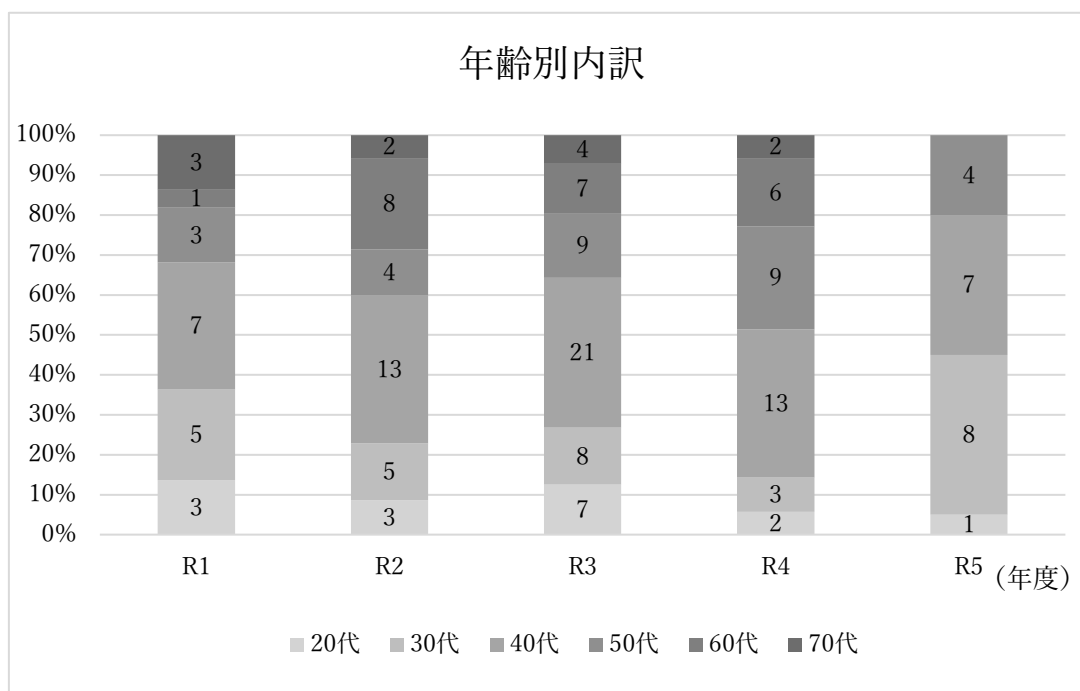
(単位：人)

	前年度継続利用者数	新規利用者数	合計
令和元年度	10	12	22
令和2年度	12	23	35
令和3年度	30	26	56
令和4年度	31	4	35
令和5年度	17	3	20

2) 対象者概要

(1) 性別、年齢内訳





40代が全体の36.3%を占め、30代と50代がいずれも17.3%であった。

(2) 危機介入理由内訳

(単位：人)

	未治療	治療中断	長期入院後	ひきこもり
令和元年度	11	11	0	0
令和2年度	20	15	0	0
令和3年度	34	21	0	0
令和4年度	24	11	0	0
令和5年度	8	12	0	0

(3) 支援状況内訳

(単位：回)

	対象者数 (実)	支援回数 (延)	支援内訳				
			訪問	面接	電話	往診	機関 相談
令和元年度	22	483	106	46	102	74	155
令和2年度	35	688	154	32	256	105	141
令和3年度	56	1,494	365	31	438	201	459
令和4年度	35	626	180	11	172	82	181
令和5年度	20	421	118	10	111	40	142

【考察】

当センターには関係機関や家族からの相談が多く寄せられる。令和2年度と令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響からか新規利用者数が増加した。当センターに相談があった場合は、家族や関係機関等の相談依頼者と迅速に訪問を実施している。医療機関の導入がすぐに実施できない場合でも、本人の困りごとや本人の意思を中心に病状や生活状況等に応じて支援を実施している。支援することで、すぐに状況が変化しない場合もあるが、支援を継続し続けることで、本人との関係に変化が生まれることや本人への支援がタイミングよく行えること、本人を取り巻く家族や地域の不安を軽減することにもつながる。本人の意思を尊重しながら、ある程度の時間をかけて支援を行う場合もあることを念頭に置き、今後も本人が住み慣れた地域で安心して地域生活が継続できるよう、状況に応じた支援を関係機関と連携しながら実施していきたい。

3. 人材育成

【内容】

市内の精神保健福祉関係者への研修を開催している。

【実績】

1) 令和元年度

	研修名	対象	内容	会場	参加人数
1		北区中央保健センター	事例検討会	保健福祉会館	20人
2	地域精神保健危機介入・継続支援体制整備事業	岡山県との共催 岡山県内の市町村、保健所・支所、精神科病院、相談支援事業所等、精神障害者に携わる職員	令和元年12月20日 講演 「入院中から地域の生活支援を考える」 講師 岡山県精神保健福祉センター 所長 野口 正行 氏 石川県社会福祉法人朋友会 岩尾 貴 氏 静岡県 三方原病院 増田 喜信 氏 大阪府 浅香山病院 山本 めぐみ 氏 石川県やたの生活支援センター 岡安 努 氏 岡山市こころの健康センター 木本 達夫	おかやま西川原プラザ	152人

3	地域移行・地域定着支援事業 研修会	岡山市内の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、保健所、保健センター、相談支援事業所に勤務する職員	令和2年1月20日 講演 「当事者に寄り添った地域支援を行うために」 講師 京都市こころの増進センター 所長 波床 将材 氏	ピュアリティまきび	46人
4		岡山市内の精神科病院および相談支援事業所、保健所、保健センターに勤務する職員 ※新型コロナウイルスの影響で中止	令和2年2月28日 実践報告会 講師 岡山県精神科医療センター 中井 志穂 氏 坂本 年生 氏 橋満 理恵 氏 地域サポートセンター仲よし 向所 優希 氏	岡山県精神科医療センター	—

2) 令和2年度

新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず

3) 令和3年度

	研修名	対象	内容	会場	参加人数
1	地域移行・地域定着支援事業 研修会	岡山市内の地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、保健所、保健センター、相談支援事業所に勤務する職員	令和3年6月23日 講演 「当事者に寄り添った地域支援を行うために～治療を望まない方や支援につながりにくい方への関わり～」 講師 大和診療所 医師 藤田 大輔 氏	ほっとプラザ大供	79人

2		新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施せず	実践報告会	—	—
---	--	------------------------	-------	---	---

4) 令和4年度

	研修名	対象	内容	会場	参加人数
1	地域移行・地域定着支援事業 研修会	岡山市の保健所、保健センター、相談支援事業所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所に勤務する職員	令和4年9月6日 事例紹介 「主となる支援者が変更となったがどのようにしたら生活を変えずに円滑に移行することができるか」 地域サポートセンター 仲よし 向所 優希 氏 居宅介護支援事業所 おもいやり 安藤 雅子 氏 岡山市こころの健康センター 藤井 真弥	オンライン	55人
2		岡山市内の精神科病院及び相談支援事業所、保健所、保健センターに勤務する職員	令和5年2月17日 実践報告会 テーマ 「事例を通して長期入院患者への退院支援を考える」 事例報告： 岡山県精神科医療センター 渋田 厚子 氏 岡山市こころの健康センター 山口 智絵	岡山県精神科医療センターとオンライン	56人

5) 令和5年度

	研修名	対象	内容	会場	参加人数
1	地域移行・地域定着支援事業 研修会	岡山市の保健所、保健センター、相談支援事業所、地域包括支援センター、居宅介護支援事業所、精神科病院に勤務する職員	令和5年12月1日 講演 「65歳を迎えて～介護保険制度の現状と支援のあり方について～」 講師 ひかり薬局介護相談事務所 内藤 さやか 氏 事例紹介 「切れない絆を一緒につむぐ～障害福祉サービスと介護保健サービスの併用をした事例」 地域サポートセンター仲よし 早見 加代子 氏 相談支援センター鹿田 奥田 真由美 氏 ケアメイトエール 塩田 由紀子 氏 こころの健康センター 山口 智絵	ピュアリティまきび	58人
2		岡山市内の精神科病院、訪問看護ステーション、相談支援事業所、保健所、保健センターに勤務する職員	令和6年3月8日 実践報告会 テーマ 「長期入院患者への退院支援を考える～安心した地域生活を送るために～」 事例報告 河田病院 小引 知美 氏 岡山市こころの健康センター 松本 奈乙美	河田病院	29人

【考察】

令和元年度は、地域精神保健危機介入・継続支援体制整備事業研修会を実施した。令和2年度以降は、新型コロナウイルス感染症拡大により、保健センターへの研修や岡山県との共催による研修は困難となった。

地域移行・地域定着支援研修会は、介護保険に関わる関係者や障害者総合支援法による関係者へそれぞれに開催していたものを、相互理解や顔の見える関係づくりのために、合同で開催した。長期入院患者が退院後、介護保険の利用や障害福祉サービスから介護保険サービスへ移行する場合もある。制度の違いがある中、どのように支援を引き継いでいくかが重要となっている。令和4年度からは、介護保険の利用や障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行をテーマに研修を実施したことで、現状と支援の在り方などを共有や検討をすることができた。また、実践報告会では、精神障害者が安定した地域生活を送るために何が必要なかを検討し、精神科病院職員や地域の支援者と共有することで今後の退院支援に活かすために開催している。令和元年度から令和3年度まで、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となっていたが、令和4年度から市内精神科病院を会場に再開した。病院関係者や地域の支援者に長期入院者への退院支援の取り組みを知ってもらえる貴重な機会となっている。

今後も、関係機関の相互理解や顔の見える関係づくりの一助となるよう、必要に応じた研修会を開催し、精神障害者が地域の一員として、安心して自分らしく生活できる地域づくりを目指していきたい。